

そらまめと感情といま合つてゐる

藤田湘子

私の苦手とする句。昭和六十年、湘子は一日十句の修行中であり、毎日十句以上作句し『鷹』誌上に全句発表した中から句集に残した。つまり自信句なのだろう。

しかし、「感情といま合つてゐる」と言われても何の手掛かりもない。そうなのか、あの空豆が好きなのか、あの莖への莢の成りよう、剥きたての豆の大きさ、茹でたての色合い。しかし、自宅の庭に空豆を植え、毎日その成長を楽しんでいたとも思えない。疑問である。

馬酔木風や伝統俳句風ではない何かを得るために、一歩前に出る。失敗を恐れず多作する。修行三年目。俳句の型にはまらず自在ではあるが、こんな句ばかりになつては不満と、一弟子の私は、未だに肯いかねている。

1985年（60.05.16作）第八句集『黒』 鑑賞・轍郁摩